



「殉職」—この言葉を知ったのは、子どものころから観ていた刑事ドラマの金字塔『太陽にほえろ!』(1972〜86)だったと思います。

学校で、「今週の『太陽にほえろ!』は〇〇刑事が死ぬらしいぞ」と友達から聞くと、そわそわ、どきどき。金曜の夜には胸を高鳴らせてテレビに囁り付いた記憶があります。

ドラマだとわかっていても、刑事さんの殉職のシーンは悲しくやるせなく、でもどこかで、「僕もこんな、命懸けで人を守るカッコいい大人になりたいなあ」と思ったこともありました。だから、感染症で「殉職」する可能性のある医者という職業を選んだのかどうか…自分でも忘れてしまいました。ショーケンこと萩原健一さん

⑪ 元俳優 宮内淳



この世での役目を終えて卒業

長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終凶巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

が演じたマカロニ刑事は、通り魔に刺されて死にました。

松田優作さんが演じたジープン刑事は、自分が助けた男に撃たれ、「なんじゃこりゃあ!」と血を見ながら死にました。

沖雅也さんが演じたスコッチ刑事は、病気のなにハードな仕事をし続けた結果、犯人を追いつめた後に咯血(かっけつ)して死にました。

そして、この人。宮内淳さんが演じたボン刑事は、13日の金曜日に市民を庇(かば)って被弾。最期の力を振り絞って電話ボックスに行き、ボス(石原裕次郎さん)の声を聞きながら絶命。あの電話ボックスのシーン、今でも脳裏に焼き付いています。

その宮内淳さんが、8月14日に本当に亡くなられていたそうです。享年70。死因は、直腸がんとの発表です。いつ発症されたか、どのような闘病だったかは明かされていないようです。宮内さんは、50歳を過ぎた頃に俳優業を引退し、環境問題の啓発を行う公益財団法人「地球友の会」を設立。自ら代表理事となつて活動されていきました。同会は、宮内さんの死に際したような発表をしています。

「日ごろから宮内は、『死ぬという』ことはこの世でのお役目を終えて卒業し、次のステージに行けるということでもあるのだから、どうか悲しまないでほしい」と語っておりました。このコメントに、思わず涙しました。人間は誰しも、何か「役目」を背負わされて生きていくのだと日々感じます。赤ちゃんも100歳の人も、動物も、それぞれに役目は必ずある。「もういいよ、お疲れさん」と神様がそっと肩を叩いてくれたとき、魂は初めて休息できるようです。

そう考えると、「死」とは、誰もが「殉職」なのかも…この世に生かされているうちは、「フアイト、一発!」と気合を入れ続けるしかないのかもしれない。